

土砂笑曾にりりり新えり

金津中学校 二年

山本 尊華

ヤキモト 尊華

土砂災害。その言葉も聞いて私が思いのほか
ぶのは、在島県で二〇一四年八月二十日にお
きた木規模の土砂災害のことです。この土砂
災害は死者七十七名、負傷者四十四名とて
も大きな被害をもたらしました。私は、最初
このニュースを見たとき、自然災害とは怖い
ものだな、と思っていました。今まで通り、
普通の生活ができていなくなる。そんなことは、
とても想像できません。しかし、その時は、
大変なことだと思いましたが、私も福井からは遠い
場所だし、福井ではこんなことはおこらない
だろうと思っていました。
しかし、十二年前この福井でも土砂災害が
おきたのだと、両親から聞いて知り、とても驚
きました。この土砂災害は、私がかつて一才の
とき、二〇〇四年七月十八日の福井豪雨によ
りおこりました。死者四名、負傷者十九名、
六十名棟もの建物が全壊するという大きな被害
を受けました。私は、小さくて全く記憶に
ない中で、その時の様子を詳しく知ることには、

両親や祖母から当時の話を聞きました。私の
住んでいる家の周辺では、被害はなかっ
たのですが福井市や鯖江市などは被害が
大きか
たそうです。
祖母は菜山にある親戚の家に、水害の
舞に行っ
たそうです。
その時の様子
をこの語り
ます。
道路は壊れ
た。川には
土砂や木
が流れて
家や畑が
壊れて、
屋根も骨
組しか
残って
た。福井
市では
おが
流れて
悪臭が
して、
瓦
物
を
覚
え
る
よ
う
な
状
態
で
は
な
か
っ
た。
こ
ん
な
事
は
私
に
は
想
像
も
で
き
な
い
よ
う
な
こ
と
だ
と
思
い
ま
し
た。
また、
中
学
生
は
校
舎
に
入
っ
た
泥
を
自
分
達
で
取
り
除
く
作
業
を
し
て
い
た
そ
う
で
す。
ま
た、
大
勢
だ
と
思
い
ま
す
が、
自
分
達
の
使
り
場
所
は
自
分
達
で
ま
か
ら
い
に
し
よ
う
と
い
う
気
持
が
あ
り、
そ
う
い
う
こ
と
が
あ
ら
な
い
と
思
い
ま
す。

父もまた、被害をうけた鯖江の親戚の家に、土砂を取り除く作業を手伝いに行きました。その親戚は、幸い家は被害をまぬがれましたが、山の近くだったのでその家の小屋には、大量の土砂が流れこみ、たまたまその家の家は、家の中まで土砂が流れ、家具などはほとんどだぶにたまりました。そのうち、その家の前の道路もこわれ、車は通れず、途中からは歩いて、その家まで行きました。

被害の木々も、ある程度覚悟していたはずも、

実際その場に降りて、想像以上にひどく、とんでもないと言っていました。土砂は長く、その上の方まであり、何ともいえない恐怖を伴い取り除いてもなくなりませんでした。また、夏は暑い、冬は寒い、とて、一日では取り除くことができません。話を聞きました。年は、その当時の様子を十年以上経たずとも、鮮明に覚えていようです。

福井豪雨による土砂災害で、大被害をこう

「下り」のことにはたらくさんあつたと思ひます。でも、その中で多様に来たボランテアの人達や、地域のト達と助け合つたことで、絆のようなものも、うまれたいのではないかと思ひます。

自然災害は、私たちに防ごうことはできません。そして、いつ起こるかわかりません。けれども、それに備へた様々な対策をしておくことはできます。例えば、砂防ダムをいもうものことです。これは、山が崩れる土石流を防ぐため

に、流石を簾やかにし、町や村にできるだけ被害を減らすために設置すればいいです。しかし、私たちが身近なところでも災害対策をやることはできます。土砂災害を防ぐ、自然災害が起きたときの避難場所を確認しておくことです。また、地域や学校での防災訓練に積極的に参加するということです。また、ただ参加するだけでなく、しっかり本身に合わせた場合を想定してやることも大切だと思います。また、家ででも、水や食糧などを準備

してかくこも、避難袋を準備してかくこも
大切だと思ひます。

私は今まで福井ではそんな村に木もな自然
災害はあまなだりも、災害に村して少し
軽い気持ちでいました。しかし、今回福井で
も木規模な土砂災害があつたを知り、その気
持ちは解かりました。私は、これから変わら
ぬのハガードマップでも一層確認したり、身近
なところからできる、自然災害の対策をしたり
して、およりと思ひました。そして、自然災害
に備へておける、良い事、かけになつたと思
ひます。